活動報告回



Childline Annual Report 2023 | ができました!

毎年刊行している報告書『Childline Annual Report』を今年も発刊しました。 本号では、「受けとめた声のデータのほか、 チャイルドラインからの提言として、「子 どもの声を聴く」と「小中高生が生きてい こうと思える社会であるために」の2つの 特集を組み、子どもを自殺に追い込まない ためにおとなの私たちができることを考え ました。ぜひ多くの方に読んでいただけた らと思います。冊子をご希望の方は事務局 までご連絡ください。Web上でもご覧いた だけます。 ※競輪の補助を受けて作成しました。





チャイルドライン全国研修 2023

「子どものSOSに気づいていますか? ~すべての子どもの聴かれる権利が保障される社会に~

- ◆日時 2023年12月9日(土)13:00~17:30
- ◆場所 国立オリンピック記念青少年総合センター (東京都渋谷区代々木神園町3-1)
- ◆登壇
- (1)基調講演=甲斐田万智子さん

(国際子ども権利センター代表理事)

(2)パネルディスカッション 甲斐田万智子さん(同上) 今村久美さん (NPO法人カタリバ 代表理事) 内田 良さん (名古屋大学教育社会学 教授)

竹村浩 (NPOチャイルドライン支援センター代表理事) ◆料金 一般3,000円/チャイルドライン関係者1,000円

- ◆申込 参加申込や詳細の問合せは事務局まで。

ご支援・ご協力 ありがとうございます

子どもたちの生きやすい社会を目指し活動する チャイルドラインへのご支援をこれからもよろしく お願いいたします。

●2023年1月~8月のご寄付総額 12,437,632円

振替口座 00120-5-425245 (019支店 当座0425245)

口座名 NPO法人チャイルドライン支援センター

※ 当団体は東京都の認定を受けています。ご寄付いただくと所得税や 法人税の控除を受けることができます。 (内閣府HP https://www.npo-homepage.go.jp)

墓金サイト

https://donation.yahoo.co.jp/ detail/5452001



※ Yahoo!ネット募金とは、さまざまな社会課題の 解決を目的にヤフー株式会社が運営する寄付の ポータルサイトです。クレジットカードやTポイントによる寄付 に対応しています。

チャイルドラインの仲間が増えました!

熊本県熊本市中央区を拠点とした「チャイルドライン熊本」が 開設準備団体として、チャイルドライン実施団体の仲間に 加わりました。全国の実施団体については、チャイルドライン 支援センターのホームページをご覧ください。

https://childline.or.jp/supporter/volunteer/party

フリーダイヤル、オンラインチャット、 つぶやく、ネットでんわ 実 績報告



松田 # ... 唑 世 畄

#

4

Ų١

7

版七

V

۱۱

K

0 >

亡

Ш

2023

年

 \dashv

62

080

一一一

新宿

X

華

巴

4

崇荷

ת

龗

11月

2023年 月~8月	当期	前年同期比
発 信 数	234,284件	-65,232件
着 信 数	114,396件	-36,116件
着信率	48.7 %	+ 9.3 ポイント
平均通話時間	4分45秒	-4秒
総通話時間	9,013時間	-1,357時間

オンラインチャット

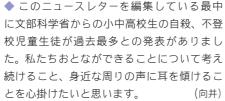
2023年1月~8月	当期	前年同期比
訪問人数	85,138件	+20,167件
書込件数	21,731件	+6,081件
対応件数	9,058件	+3,492件
対応率	41.8 %	5.6 ポイント
平均対応時間	40分43秒	-2分34秒
対応時間	6224時間	+2,153時間

フリーダイヤル=NTTコミュニケーションズ トラヒック調査ツールより オンラインチャット=チャットシステムAI.BiSのレポート解析結果 およびチャイルドラインデータベースより

● つぶやく

2023年1月~8月合計	当期
投稿件数	14,294件

編 集 後 記





X f



発行日: 2023年10月25日

発 行: 特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター(認定NPO)

〒162-0808東京都新宿区天神町14神楽坂藤井ビル5階 TEL:03-5946-8500 FAX:03-5946-8501

URL: https://www.childline.or.jp/ E-mail: info@childline.or.jp

1990年代、日本ではいじめによる子どもの自殺が社

田谷区、1998年~)は「いじめよ、とまれ!」というキャ

ンペーンから誕生しました。また、チャイルドライン支

援センター(2001年~)の牟田悌三初代代表(故人)が

文部科学省の「子どもを守り育てる体制づくりのための

有識者会議」(2006年11月~2007年6月)に委員として

巻頭言

チャイルドライン。 参加するなど、私たちチャイルドラインは子どもが安心

会問題になっていました。1994年の当時中学2年生だっ して成長できる環境を作るために活動してきました。 た大河内清輝さんの自死が大きく報道されたことで、そ しかし、おとながいじめをなんとか止めたいと奔走し れ以降いじめの問題は社会問題として大きく取り上げら ても、その後もいじめによる子どもの自殺はなくならず、 れるようになりました。そのような子どもの深刻な状況 2011年の滋賀県大津市のいじめ自殺事件を機に「いじめ を背景に日本のチャイルドラインは広がってきました。 防止対策推進法」が制定され、今年で10年を迎えます。 最初に開設した「せたがやチャイルドライン」(東京都世

チャイルドラインには開設した当初からいじめ被害者 からだけではなく「いじめてしまった」という声や「友 だちがいじめられているけれど、どうしていいかわから ない」という声も入ってきていました。その中には「い じめられている子の味方をしたら、次は自分がいじめら れる」と学校が安心できる場所ではなくなっている様子

あらゆる 暴力を 追放しよう

世の中をめざして

がうかがえます。私たちチャイルドラインに関わるおと なは、被害に遭っている子どもの気持ちはもちろん、加 害する子どもがなぜいじめに走ってしまうのか、その時 どんな気持ちになっているのか、どちらの側の子どもで あっても、ありのままを受けとめ、声を聴くことを貫い て活動を続けています。

チャイルドラインに寄せられる子どもの声を分析する と、深刻な悩みとしては、いじめに関する相談は最多で 推移してきました。それがここ数年は減少傾向にありま す(近年については3頁図表参照)。しかし、いじめ対策 が進んだから安心していいということではないと受けと めています。

「いじめ」というと子ども同士の問題のように取り上 げられますが、果たしてそうでしょうか。「いじめ」と 言っていますが、内容は「暴力」です。精神的、肉体的、 あるいは性的に相手を傷つけ、排除やコントロールをす る行為であり、「犯罪」です。おとな同士の関係でもパ ワハラ、セクハラ、DVという暴力があり、おとなから

子どもに向けた体罰や虐待、セクシャルマイノリティ、 外国籍、障害者への差別なども行われています。これは すべて人権侵害であり暴力行為です。その自覚が私たち おとなにあるでしょうか?子どもの「いじめ」をやめさ せるために子どもの状況を何とかしようとしても、おと なが見本を示さない限り「どの口が言う | ということな のではないかと私は感じています。社会から暴力をなく していくことが、いじめを止めることにつながっていく のではないでしょうか。

今こそ、いじめは子どもの問題ではなく社会全体の問 題と捉える必要があります。社会からいじめをはじめと したあらゆる暴力がなくなるようどう働きかけていった らよいのか、チャイルドラインは考え続けたいと思い

> チャイルドライン 支援センター 常務理事

髙橋 弘恵

「いじめ防止対策推進法」が施行されてから、2023年9月で10年経ちます。この間、各現場で議論 や対策が行われてきました。果たして、いじめは減っているのでしょうか? 課題は解決している のでしょうか? さらなる改善策は? ここでは少しそれらについて考えてみたいと思います。

「いじめ防止対策推進法」 施行から10年、 いじめは減ったのか



副代表

須永 祐慈

認知件数と実際のいじめ発生

文部科学省の2022年発表の「いじめの認知件数」は、児童 生徒合わせ過去最高の61万5千件と報告されています。「過 去」という文字から「深刻化している?」という印象を抱く 方もいると思いますが、例えば、国立教育政策研究所の子ど もへの調査では「無視・陰口・仲間はずれ」の割合は、ここ 20年近くは「急増も急減」もしていません。月に数回「仲間 はずれ」などの被害の割合は、おおむね15%~20%です。 文部科学省の数字は学校側が「認知」した件数で、実態とは 齟齬があります。

いじめ防止対策推進法によって、文科省は「いじめの防止 や対処、重大事態の際の環境の整備・体制の促進」を進めた といいますが、全国各地で「いじめ自殺報道」が起こってい るように、問題は残り続けています。具体的な課題として、 学校現場のいじめ防止法の理解・浸透不足、学校の日常的チー ム作りの不足、いじめ発生後の共有体制の課題、外部専門家 との適切な関係構築の未整備、重大事態発生時の対応の停滞 や、第三者委員会の組織設置のあり方、重大事態調査の方針 のあり方、被害者や関係する人への適切なケア……あげたら キリがありません。

一方で、近年、いじめはやや減少しているかもしれない、 という指摘もあります。これが、いじめ防止法の「効果」かは、 今後の検証が必要になりますが、何も手を打ってこなかった わけではないことも認識したいところです。

学校現場の課題

一方「教員の働き方改革」は、いじめ防止対策にも大きく 関係しています。教員の多忙は、子どもと向き合う時間が減 少し、いじめに気づきにくい状況、対応の遅れを生みます。 教員同士の情報や知恵の共有・スキルアップ時間の不足、教 員の労働ストレスも子どもへ影響を与えます。

また、「保護者対応」も教員の悩みです。被害・加害者調整 の中で、双方の保護者からの厳しい指摘や抗議への対応スキ ル不足、対応の遅れによる関係のこじれ、なども明らかにな りつつあります。いじめは、その被害の深刻さから、責任追 求に焦点が当てられがちです。何より「子ども自身」を中心 にして何ができるかという視点が欠かせませんが、対処が いつの間にか「大人の紛争」になっている現状の課題もあり

できる方策

課題が多い分、できる方策もあります。まずは、起こって いるいじめの状況の、何が問題・ネックなのかの論点整理と、 いじめの改善を妨げる要因はどこか、学校・保護者の垣根を 越え、一緒に改善策を講じていく必要があります。 いじめ に困った時は様々な解決策があることを共有すること、「頼 れるつながり」を一つでも多く持つこと、法律など子どもた ちを守る根拠を味方につけること、いじめを「撲滅」できな くても「減らす」ことはできること、教室などでの「環境」を 良くすることなどです。これらの「ポジティブな要素」を多 くの人と議論し、知恵を出し合い、共有し、発信していくこ とが必要です。

この10年、いじめ対策を進める輪がほんの少しとはいえ 動き始めています。これを、もっと大きく・早く・強く拡大 していく必要があります。

多くの人が言います。いじめは完全に無くすことはできな い、と。でも、今よりもっと、少なくしたり傷を軽減したり、 解決の可能性を広げることは、確実にできる。その思いを 皆さんと共に共有して、課題解決をさらに前進させていきた いと思っています。

FROM CHILDLINE DATA.. 年度別割合



いじめに関する電話は2020年度以降に減少傾向あります。これは、コ ロナ禍における休校処置などの学校生活の変化の要因が強く影響して いると考えられるので、通常期においていじめが減少しているかにつ いては、今後の傾向を見ていく必要があります。

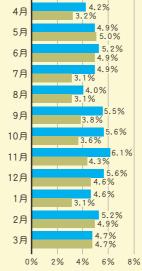
FROM CHILDLINE DATA. 全体と 直折1年

一般的に「いじめ」は「2学期に増 加しすると言われ、その時期の対応 が注目されがちです。

しかし、過去7年間の集計からは、 6月、11月、2月と学期ごとにピー ク月があり、いじめでよく注目さ れる「2学期」以外にも注視する必 要があることがわかります。

「直近1年間の月別傾向」において は「7月~1月」は低い割合です。 これはコロナ禍の影響が続き、対 外的な交流 (大会) やイベントの制 限などが要因となった可能性があり ます。一方、2023年に入ってからは コロナ禍以前の平均レベルに近づ いていると思われます。

「いじめ」の月別割合・比較 (2016-2022年度、会話成立、分母·電話)

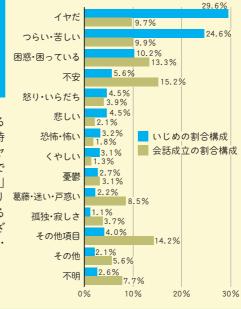


過去7年間のいじめ割合 直近1年間(22年7月~23年6月) のいじめ割合

FROM CHILDLINE DATA... 気縛ちに 関する 傾向

いじめの中身を分析する と、子どもが訴える気持 ちの上位にくるのは「イヤ だ」と「つらい・苦しい」で すが、「困惑・困っている」 も3番目に多く、はっきり 葛藤・迷い・戸惑い とした「心身の苦痛」がある だけではなく、向き合わざ るを得ないことへの困惑・ 悩みも伺えます。

「いじめ」と「会話成立」の割合比較 (2016-2022年度、電話)



の過場を 年分の いすの

電話による会話成立 い回与めま まべるめ

チャイルドラインのデータにおいて、「いじめ」に関する 悩みは、平均して「5%程度」あることがわかりました。年 代によってやや減少傾向に見えますが、コロナ禍での環境 の変化による変動も大きいので、通常に戻った今年度以降 の傾向を注意深く見ていく必要があります。

また、文部科学省の調査との違いもあります。特に月別 傾向や年齢割合、学校内、部活内、ネット上などの項目別 に見た傾向にも注目していく必要があります。ほかにも、 他のテーマを含む会話成立全体と比べ、「いじめ」は心身の 苦痛がより強く感じられていることも明らかになりました。

チャイルドラインデータは、受け手が感じた子どもの状 況を集積したものなので、「間接的データ」と位置付けら れはしますが、他の機関の調査と比較すると、より「実際 の声・傾向」が集積されている可能性がありそうです。さ らに、さまざまな視点や角度で、いじめテーマの分析を行 なっていくほか、いじめ以外のテーマについても同様に分 析を進めていく予定です。

~ 2023年 第1 四半期の事例より~

- ◆ 部活でいじめられていて誰にも相談できない。部活はやめたくない。
- ◆ 家にも学校にも居場所がない。学校ではいじめられているし、家で は出来ていないことばかり指摘される。
- ◆ネット上で悪口を書かれた。問いただすと「私じゃない」と言われた。 友達だと思っていたのにショックでどうしたらいいかわからない。
- ◆今の担任の先生は、「いじめを受けているとわかったら親に連絡する」 って言ってたから嫌。いじめられっ子の気持ちも知らずにそんな事 言ってほしくない。
- ◆ なにか問題がおこったら私のせいにされる。いじめっ子がいじめて くるって言ったら、みんないじめられる大の理由があるから、あな たが悪いって。家族に話してもあんたが悪いって。生きる意味って なんだろ。 ※個人が特定されないようプライバシーに配慮して再構成しています。